

遍路がのこした記録・普及に尽力した人物・支えた地域

四国遍路が庶民に広がる江戸時代において、道中日記などを書いたのは、庄屋を務めるような上層農民、裕福な商人などほんの一握りに過ぎないが、のこされた記録からは、当時の遍路の実態を垣間見ることができる。

江戸時代後期に遍路が増えた背景には、絵図や案内記のみならず、関西において遍路の普及に尽力した先達者・菱垣元道などの民間宗教者の活動も注目される。

四国霊場の札所と札所を結ぶ遍路道では、遍路宿、遍路を物心両面で支えた接待に関する資料、道中で亡くなった遍路の記録など、多くの遍路の痕跡がのこり、地域で遍路を支えていたことがわかる。



全体



巻三 道中日記



巻四 納経帳

12 四国西国順拝記 文化6年(1809)

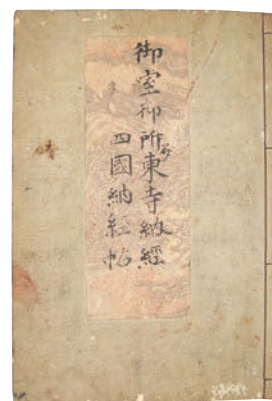
京都の商人升屋徳兵衛が行った四国遍路、西国巡礼の道中記録。四国遍路の案内記、西国巡礼の案内記、道中日記、納経帳の4冊からなる。徳兵衛の子である弥四郎の病氣回復を祈願しての旅であり、弥四郎の妻せむも同行したため、病人と女性を連れた旅であった。道中日記には食事や泊まった宿の感想などが詳細に記されている。他の遍路の道中日記に比べると圧倒的に情報量が多く、リアルな描写が目立つ。



大坂から讃岐多度津への航路図



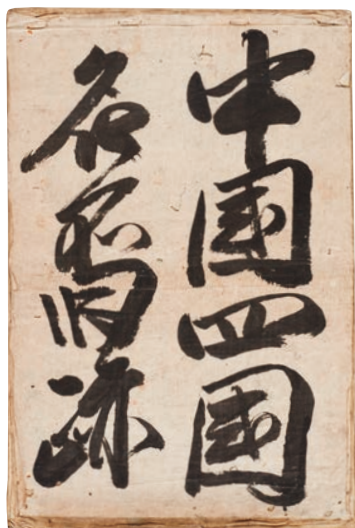
四国道中手引案内



表紙

13 『四国道中手引案内納経帳』 江戸時代後期 18-19世紀 個人蔵・愛媛県歴史文化博物館寄託

菱垣元道が自費出版した遍路入門書付きの納経帳で、内扉に「御室御所施本御免」とあり、京都の仁和寺との関わりのもと作成されたことがわかる。前半の「四国道中手引案内」には、旅の準備物、食料や路銀、四国に渡海する航路、納札の体裁や必要枚数、道順や札所の概要などが記されており、大坂から初めて遍路に出る者が不安を抱かないように詳細な解説が加えられている。初版は享和2年(1802)で、13年目に目標としていた5万冊の施本を達成するが、大坂から讃岐多度津に渡海する航路を推奨する記述を新たに加えて施本は継続されている。



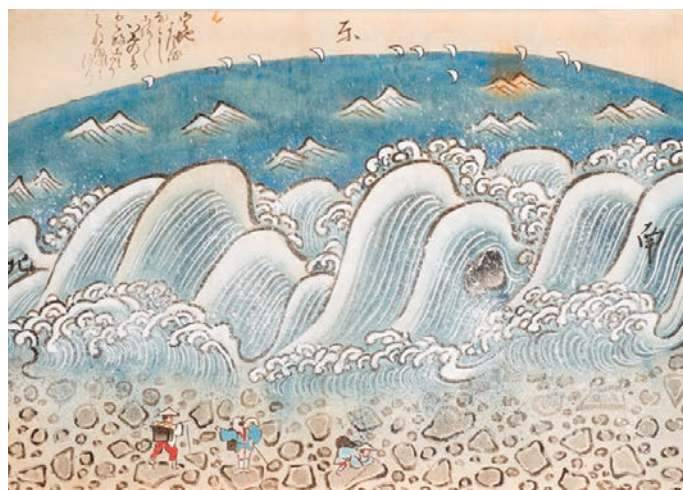
表紙



徳島・四国霊場第21番太龍寺「阿州太龍寺岩谷図」



高知・甲浦番所「土州韓浦番所」



高知・室戸海岸「飛石・はね石」



愛媛・四国霊場第45番岩屋寺「伊予国岩屋山」

14 中国四国名所旧跡図

江戸時代後期 18-19世紀

大和国田原本（奈良県田原本町）の仏絵師西丈が、中国・四国地方の名所旧跡を描いた画帖で、76枚の彩色された絵が綴じられている。和泉国の堺に始まり、山陽道沿いに摂津・播磨・備前へと進み、その後瀬戸内海を渡海して、讃岐・阿波・土佐・伊予を廻り、最後は66番雲辺寺（徳島県三好市）で終わる。田原本を出発した西丈が、金毘羅参詣と四国遍路の途次に描きのこしたものと考えられ、一人の遍路が目にした四国の姿が、大胆な筆致で生き生きと表現されている。



軒下に吊されていた
八幡浜市若山の俵札



俵の中に入れていた納め札（一部）

15 八幡浜市若山の俵札

江戸時代後期～明治時代 18-20世紀

俵札とはお接待の返礼に遍路から受け取った納札を俵に詰めて、天井や軒下につり下げたもので、家内安全・無病息災に霊験があるとされた。若山地区は九州方面からの玄関口となる八幡浜港に近く、八幡浜街道における四国遍路の実態や巡礼者の動向を把握できる貴重な資料である。現在、愛媛県歴史文化博物館と愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センターによる合同調査が行われており、2つの小さな藁俵の中にあつた江戸時代後期から明治期にかけての大量の納札や護符類の整理が進められている。

16 行き倒れ遍路の記録「旧窪野村の遍路関係文書」

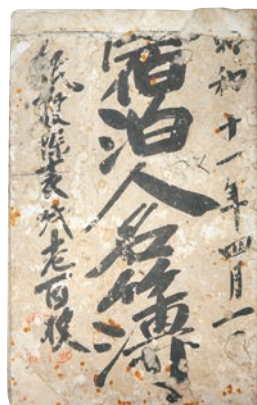
江戸時代～明治時代 18-20世紀

松山市窪野町蔵・愛媛県歴史文化博物館寄託

三坂峠に通ずる旧窪野村（松山市窪野町）の記録によると、享保8年（1723）、備後国（広島県）の遍路（安兵衛）が足の病気によって村内で亡くなり、所持品は往来手形、杖1本、菅笠1つ、荷台1つ、木櫛2つ、木綿袋2つ、紙袋2つ、渋紙1つ、めご1つ、天目1つ、小刀1本、銭15文とある。遍路が道中で倒れ、病気で旅ができなくなると、所持品を改め、事の経緯を記した書付を添えて、遍路道沿いの村々が、順々に国元まで送り届ける「遍路送り」が行われていたことがわかる。



太山寺参道にあった遍路宿（井筒屋）



宿泊人名簿

昭和11～21年（1936～46）



蓋付椀（観音講世話方）

嘉永3年（1850）



接待に使用した菓子皿

17 太山寺参道の遍路宿（井筒屋）関係資料

江戸時代～昭和時代 18-20世紀

四国霊場第52番札所太山寺の参道には崎屋、布袋屋、木地屋、井筒屋の4軒の茶屋があつた。春になると、近隣の村や忽那諸島の住人が茶屋の軒先を借りて、小豆ご飯・うどん・餅・菓子・ちり紙・お賽銭などを遍路に接待した。参道上手にあつた井筒屋は遍路宿としても利用され、宿帳、客室平面略図、あんころ餅の接待で使用された漆器の菓子皿、嘉永3年（1850）に南大工町観音講で使用された漆器の膳や椀などがのこっている。

「四国遍路と弘法大師信仰」（後期展）展示資料リスト

項 目	資 料 名	年 代	所 蔵 者
(1) 特別公開「四国最古 太山寺の弘法大師像」	1 絹本着色弘法大師像（愛媛県指定有形文化財）	鎌倉時代	太山寺（四国霊場第52番札所）
(2) 絵図から見た四国遍路	2 細田周英「四国徧禮絵図 全」	宝暦13年（1763）	愛媛県歴史文化博物館
	3 四国徧禮絵図	江戸時代後期	愛媛県歴史文化博物館
	4 四国へんろ絵図	江戸時代後期	愛媛県歴史文化博物館
	5 象頭山参詣道四国寺社名勝八十八番	江戸時代後期	愛媛県歴史文化博物館
	6 四国遍路道中図	大正6年（1917）	愛媛県歴史文化博物館
	7 吉田初三郎「四国八十八ヶ所霊場案内及名勝史蹟交通鳥瞰図」	昭和9年（1934）	愛媛県歴史文化博物館
	8 四国霊場第四十五番伊予国浮穴郡海岸山岩屋寺勝景大略図	江戸時代後期～明治時代	愛媛県歴史文化博物館
	9 四国霊場豫州太山寺全図	明治30年（1897）	愛媛県歴史文化博物館
	10 松尾峠から城辺村までの絵図（写真展示）	江戸時代後期	愛媛県歴史文化博物館
	11 東多田村絵図（写真展示）	江戸時代	愛媛県歴史文化博物館
	12 四国西国順拝記	文化6年（1809）	愛媛県歴史文化博物館
(3) 遍路がのこした記録・普及に尽力した人物・支えた地域	13 『四国道中手引案内納経帳』	江戸時代後期	個人蔵・愛媛県歴史文化博物館寄託
	14 中国四国名所旧跡図	江戸時代後期	愛媛県歴史文化博物館
	15 八幡浜市若山の俵札	江戸時代後期～明治時代	愛媛県歴史文化博物館
	16 行き倒れ遍路の記録「旧窪野村の遍路関係文書」	江戸時代～明治時代	松山市窪野町蔵・愛媛県歴史文化博物館寄託
	17 太山寺参道の遍路宿（井筒屋）関係資料	江戸時代～昭和時代	愛媛県歴史文化博物館



愛媛県歴史文化博物館の常設展示室（四国遍路）

愛媛県歴史文化博物館

MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2

四国遍路の歴史文化を常設展示し、四国遍路資料を収集し、調査研究成果を企画展等で紹介している。

テーマ展「ぶらり四国遍路」開催

開催期間：2019年12月21日[土]～2020年3月29日[日]



愛媛県歴史文化博物館と愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センターによる合同調査（八幡浜市若山の俵札）の様子

愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター

Research Center for the Shikoku Henro and Pilgrimages of the World

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

四国遍路の歴史や現代遍路の多様な実態を解明するとともに、世界各地の巡礼との国際比較研究を行い、その成果を世界に向けて発信している。

- ◆本パンフレットは、愛媛県、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会が主催し、愛媛大学ミュージアムで開催した「四国遍路と弘法大師信仰（後期展）」（会期：令和元年12月25日～令和2年1月27日）の解説シートである。
- ◆愛媛県指定文化財《絹本着色弘法大師像》の特別公開にあたり、四国八十八箇所霊場第52番札所太山寺の吉川真宏住職、吉川俊宏長老に格別なご協力をいただきました。深甚の謝意を表します。
- ◆本展（後期展）の企画及びパンフレットの作成は、愛媛県歴史文化博物館の今村賢司が担当し、井上淳、大本敬久、甲斐未希子の協力を得た。
- ◆発行 令和元年12月25日
- ◆印刷 佐川印刷株式会社